

桜町調剤薬局

「被災地の自立支援へ」

阿部社長 被災地(門前町)で支援活動

バーに伝える役割も担う。そういった点も踏まえ、支援活動の経験

桜町調剤薬局を運営する侑マスト(北見市桜町)の阿部忍社長は、北海道薬剤師会からの派遣メンバーの第一陣として、能登半島地震の被災地である石川県輪島市門前町で支援活動を行った。現地での窮状を目の当たりにした阿部社長は「まだまだ多くの支援が必要な状況にあるが、与えられた使命を全うし、まずは自分のできることをやってきた」と計5日間の支援活動を振り返った。

「東日本の経験を」

— どのような経緯で今回の支援活動をしたのか。 「全国各都道府県にある薬剤師会が、被災地における救助活動の一環として災害処方箋による調剤などを行うために薬剤師を派遣している。北海道薬剤師会からも人員の派遣を行うこととなり、3名のメンバーの一人として支援活動を行ってきた」

— 現地で活動したのは1月18日～22日の5日間。第一陣のメンバーとして派遣された。

「自分はある東日本大震災のときも5日間に及び支援活動を行った経験がある。



「常日頃からの心がけを」と話す阿部社長

第一陣は被災地の現状や環境をしっかりと把握し、とにかく細かい情報を入手することが必要。自分たちが何をすべきかを整理し、第二陣以降のメン

が活かされると考え率先して参加した」

— 具体的にはどのような活動をしたか。

「モバイルファーマシー(車の移動式薬局)を使って災害処方箋による調剤を行ったり、各避難所に市販薬を配置しその状況を確認して補充をしたり、さらには避難所のトイレの衛生状況や室内のCO2濃度測定なども行う。派遣されている医療チームなどとも連携・協力しながら、被災者たちの健康管理面を支える重要な役割を担っている」

— 被災地の状況、そして被災者の様子をどんな印象を受けたか。

「至る所で建物倒壊や道路のひび割れ、崖崩れが発生していた。被災地は半島という地理的要素もあって交通網が遮断されている箇所も多く、避難所までの移動が困難を極めた。また、生活用水は供給されているが上下水道が行き届いておらず、インフラの整備が急務だと感じた。物資そのものは足りているようだが、被災者たちは避難所で生活を送ること自体



現地の崖崩れの様子



至る所で建物の倒壊が

がかなり辛そうな印象を受けた。特に高齢者の方々は精神的に追い詰められた様子も見られ、メンタル面でのサポートの必要性も痛感した」

「万が一への心がけ」

—北海道薬剤師会は今後も支援活動を継続していく。

「第二陣以降、また別のメンバーがそれぞれチームを組んで現地で活動を継続して行く予定だ。我々に与えられた役割は『地元だけでやっていける』という、その段階までサポートすること。平時とは違う被災地の窮状に手を差し伸べ、復興へ向けた

道筋をつけることが使命。目指すところは被災者たちの『自立支援』であり、一日も早く被災者たちに平穏な日常を取り戻してほしい

と願っている」

—支援活動を通じて特に感じたことは。「今回は能登地方の方々が甚大な被害を受けたが、95年阪神淡路、11年東日本、16年熊本。そして、道内でも18年の胆振東部地方と、これまでも全国各地で大規模な震災が発生している。災害は、ある日突然襲ってくる。常日頃から万が一の際への心がけを持ち、緊急時における対策を立てておくことが必要だと実感した。改めて、今回の能登半島地震で犠牲になられた方のご冥福を、そして、今なお過酷な日々をお過ごしの被災者の方々に心からお見舞い申し上げたい」

被災地では『北海道薬剤師会』の名が入った防災ベストを纏い支援活動を行った阿部社長。「わざわざ北海道から来てくれたんだね、ありがとう」過酷な環境で生活する被災者から感謝の言葉をかけてもらうこともあった。「こんな大変な状況の中でも、人の温かさに触れることができた」と活動を振り返る。そして「今なお過酷な生活を強いられている被災者のために、支援募金等、皆それぞれができることに協力を」と広く被災地支援への理解と協力を呼びかけている。